

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科		
科目名称	公衆衛生学						授業形態		講義	
科目コード	301600	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	木村 志緒								ICT活 用	○
授業概要	公衆衛生とは「地域社会の努力によって、疾病予防、寿命延長、身体的・精神的健康の増進を図る科学・技術である」と定義されている。 この定義について理解を深めるため、健康の概念、公衆衛生の概念、環境汚染、保健統計、疫学、がん、感染症、医療制度、地域保健、母子保健、高齢者保健等について、国試問題を題材として学習する。									
関連する科目	履修前に、食事計画論実習Ⅰを受講しておくことが望ましい。 履修後に、健康管理概論を受講することが望ましい。									
授業の進め方 と方法	第2～14回の流れ ①国試過去問解説を聞く ②本日の練習問題に関するPPを提示するので、必要に応じてマーキングを行う。 （①②とも適宜、スライド撮影時間を設けますので必要であれば撮影してください） ③ミニ回答用紙に「覚えておきたい事柄」を記入する（5分） ④練習問題（6～8問）を解く→ユニバのテストにて提出（出欠＆平常点） ⑤資料を見たり、周囲と相談したり、教員に質問したりして練習問題を再度解きなおす →ユニバのテストにて提出（出欠＆平常点） 第15回の流れ									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション ：授業概要、授業の進め方、授業計画、授業の到達目標、時間外の学習、評価方法等について理解し、予習に取り組む。									
授業計画 【第2回】	健康の概念、公衆衛生の概念 ：プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの違い等について理解する									
授業計画 【第3回】	環境と健康(1) ：四大公害、放射線、廃棄物処理などの環境衛生等について理解する									
授業計画 【第4回】	環境と健康(2) ：環境保全に関する条約や環境汚染などの環境衛生等について理解する									
授業計画 【第5回】	環境と健康(3)および保健統計(1) ：温熱、上下水道などの環境衛生、平均寿命等について理解する									
授業計画 【第6回】	保健統計(2)および疫学手法(1) ：人口静態統計と人口動態統計の違い、患者調査と国民生活基礎調査の違い、疫学手法の区別等について理解する									
授業計画 【第7回】	疫学手法(2)および疫学指標 ：ランダム化比較対照試験、各手法のエビデンスレベルの比較等について理解する									
授業計画 【第8回】	スクリーニング おとびがんリスク ：敏感度、特異度、陽性反応的中度、部位別がんのリスク等について理解する									
授業計画 【第9回】	がん対策および感染症 ：わが国のがん対策、感染症法の分類等について理解する									
授業計画 【第10回】	予防接種および社会保障 ：定期予防接種A類とB類の区別、社会保障の4本柱等について理解する。									

授業計画 【第11回】	医療制度 ：医療制度のしくみ国民医療費、医療計画等について理解する
授業計画 【第12回】	地域保健 ：保健所と市町村保健センターの違い等について理解する
授業計画 【第13回】	母子保健および算用保健 ：わが国における母子保健対策（母子手帳、健康診断、健やか親子21、児童虐待防止等）、労働衛生3管理の区別等について理解する
授業計画 【第14回】	高齢者保健 ：介護保険制度等について理解する
授業計画 【第15回】	定期試験に向けて練習問題10問に取り組む
授業の到達目標	①国家試験に必要な基礎的な知識および類似問題を解く際に活用できる力を身に付ける【知識・理解を応用し活用する能力】 ②課題提出の期限を守るようスケジュール管理能力を身に付ける【自らを律して行動できる力】 ③周囲の人と協力して正答を見出したり、他者の苦手なところをサポートしたりといった協調・協働力を身に付ける【協調・協働能力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	<学習時間：20～40分程度> 授業終盤で翌週分の問題を配布するので、教科書やWEB等を参照しながら問題を解き、疑問点を明らかにしておく。
授業時間外学習【復習】	<学習時間：20～40分程度> ①まとめ資料をワードで作成し、ユニバの課題で提出する（期限までに提出しなかった場合は減点とする）。 ②練習問題を解きなおす（回答番号をユニバで提出する）。
課題に対する フィードバック	(1) 過去問の解説を授業内に行う (2) まとめ資料の作成例を授業開始前にユニバの授業資料にアップする (3) 練習問題の解説PPをユニバの授業資料にアップする 上記以外にも、質問等には授業時間外も含め対応する。
評価方法・基準	下記項目の割合に基づいて、総合的・相対的に評価する (1) 提出物・・・14% (2) 定期試験・・・86% ①問題数：30問 ②問題形式：国試と同様
テキスト	カレント 改訂 社会・環境と健康 公衆衛生学（建帛社）ISBN978-4-7679-0779-6
参考書	特に指定しない
備考	